



2018年10月31日

各 位

会社名 川崎近海汽船株式会社
 代表者名 代表取締役社長 赤沼 宏
 (コード番号 9179 東証第二部)
 問合せ先 常務取締役経営企画部長 佐野 秀広
 (TEL 050-3821-1334)

2019年3月期第2四半期連結累計期間業績予想との差異
 及び通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2018年4月27日に公表しました2019年3月期第2四半期累計期間業績予想と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、最近の業績動向を踏まえ、2019年3月期通期の業績予想を下記のとおり修正いたしましたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 2019年3月期第2四半期連結累計期間の連結業績予想との差異
 (2018年4月1日～2018年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	22,400	600	550	350	119.23
実績(B)	22,197	681	760	896	305.54
増減額(B-A)	△ 202	81	210	546	—
増減率(%)	△ 0.9%	13.6%	38.3%	156.3%	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2018年3月期第2四半期)	20,014	1,300	1,323	895	305.17

2. 2019年3月期通期連結業績予想の修正 (2018年4月1日～2019年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	45,400	2,000	1,950	1,250	425.81
今回修正予想(B)	46,300	1,700	1,750	1,550	528.00
増減額(B-A)	900	△ 300	△ 200	300	—
増減率(%)	2.0%	△ 15.0%	△ 10.3%	24.0%	—
(ご参考)前期実績 (2018年3月期通期)	41,262	2,536	2,604	1,255	427.64

3. 差異及び修正の理由

当第2四半期連結累計期間の業績につきましては、内航部門では、度重なる台風の襲来により定期航路で欠航便が相次いだことに加え、宮古/室蘭の新規航路では、宮古港へのアクセス道路となる三陸復興道路が全線開通していないこともあり定期貨物の定着が進まず、収支が予想を下回りました。一方近海部門では、外航海運の市況が改善に向かうなか、効率的な配船に取り組んだことなどで収支が改善しました。これらにより当期の業績は、営業利益、経常利益については前回発表予想を上回る結果となりました。また、船隊整備計画の一環として外航船1隻を売船し、特別利益として固定資産売却益5億79百万円を計上したため、親会社株主に帰属する四半期純利益についても、前回発表予想を上回りました。

通期業績予想につきましては、近海部門では引き続き回復基調にある外航海運市況を背景に、収支は安定するものと予想しており、OSV部門でも受注量の増加から期初の計画を上回ることが見込まれますが、内航部門では、燃料油価格の上昇に加え、宮古/室蘭航路での定期貨物の定着遅れが見込まれることから、上記のとおり修正いたしました。

なお、修正にあたり前提条件を次のとおりに見直しております。

「第3四半期以降」為替レート：1ドル=110円（前回公表時110円）

内航燃料油価格：C重油 65,500円/KL（前回公表時54,500円/KL）

（注）上記の業績予想は、当社が現時点において合理的と判断するデータに基づいて作成しており、実際の業績は今後の様々な要因により異なる可能性があります。

以上